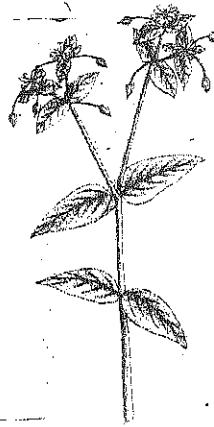


量あげたみんなの人たちに聞かれた。

勝木寺ヤマツ



法事とお母ちゃん

男子

「昨日、お婆ちゃんの二回忌の法事がありました。

お父さんは、役所勤めで一日家にいないので気楽なものだけど、おかあちゃんはこの一ヶ月、大変な大忙しでした。なにしろ死んだお婆ちゃんは、子供が六人もいて、お母ちゃんはその五番目の男の子の嫁さんに来たということだから、法事をするとなるとそれこそ大変。わんさとやって来る親戚の人達を泊まらす布団の用意、お漬物の用意。掃除・整理整頓、「まあ、気が狂うわ」といながらコマネズミのような働きぶりでした。

夜、寝るまえには、法事の予行演習。二年生の妹とみんなで、お仏壇の前に座って《帰命無量寿如来》の練習です。

「法事の一番の御馳走なんやから」「なんで帰命無量がごちそうなの。お婆ちゃんおいしいっていやはるの」妹がきいてもお母ちゃんは、「アホかいな。おばあちゃんが食べはるわけないわな。とにかく法事するにはこれなかつたら意味ないのやがな」僕もようほわからんかったけど

ところが法事の日に、お寺の「院家さんが、そのことについてお説教で聞かせてくれました。

蓮如さまが報恩講のお勧めのあと、帰命無

量唱えたのか。ほかのお寺では南無阿弥陀仏やお経となえてそれをほとけさんにお供えしやはるけれども、淨土真宗はそうとは違う。淨土真宗のお勧めさんは、これは如来さんや親鸞さんのお呼び声や。いつでもどこでもだれでも見はなさんぞというお呼び声や。如来さんから、お婆ちゃんから、御馳走もらって、ありがとうございました。お母さんは、いつもよばれていたのやなー」と、お仏壇の前でよろこばしてもらうのが法事やで」と、蓮如さまは、くれぐれ仰せになりましたとさ。

こんな話をしてくださいました。

その夜、寝てからお母ちゃんは「ああ、ほんに忙しかったけど、お婆ちゃんが孫に、ようお正信偈さん見えさせてくれたなー。わしゃーうれしいでー」と、わしらを拝んでくださっているようや。ありがたいことやなー」妹を抱き締めてしみじみそんなふうに言っておりました。

清掃奉仕

四月には前々住坊守の法事^{（山あい）}に清掃してお勤めしましょう

（仏社・仏婦事務局）

一生の妹とみんなで、お仏壇の前に座って《帰命無量寿如来》の練習です。

「なんで帰命無量がごちそうなの。お婆ちゃんおいしいっていやはるの」

妹がきいてもお母ちゃんは、「アホかいな。おばあちゃんが食べはるわけないわな。とにかく法事するにはこれなかつたら意味ないのやがな」

「なんで帰命無量がごちそうなの。お婆ちゃんおいしいっていやはるの」

妹がきいてもお母ちゃんは、「アホかいな。おばあちゃんが食べはるわけないわな。とにかく法事するにはこれなかつたら意味ないのやがな」

僕もようほわからんかったけど

ところが法事の日に、お寺の「院家さんが、

そのことについてお説教で聞かせてくれました。

いのちの

ことば

三月 やよい のこより

東広島市

本谷 正輝（七十五歳）

一日 宗学院別科修了式

二日 ボランティア協議会役員会

五日 森友敏裕氏宅法事

六日 古田耕三さま恩明

八日 豊岡市

十一日 検診

十二日 福祉シンポジウム（京都）

十三日 兼井征夫氏宅法事

十四日 朗読ボランティアあすなろ総会

十九日 平野美好氏宅法事

二十日 彼岸会△

合同祭

三木市西入寺永代経法座

出石組連研運當委員会（勝林寺）

二十一日 あすなろ（編集）

二十二日 出石役場

二十三日 アネシス研修会

二十五日 森井幸代様忌明法事

二十六日 滝清掃奉仕^{（午後2時より）}

二十七日 みのりを聞く会

中鷲庄二氏宅法事

二十八日 出石組組内会

あすなろ（録音）

あれから110年。わたしは花を見る度にあ

のことばを思い出して眺めています。

見る位置によつて全く違つた世界が醸し出

されるのです。

単にそのものだけではなく他のものに支えら

れてこそより輝きが増してくるのです。

視線、更には心の持ち方次第でそのものが

つまらなかつたり輝きを増したりするんです。

わたしは「負うた子」に教わりました。



人を殺す方法は
いちいち
知られて、いものに
知られて、いものに

人を生やす方法は
十分に

どうしてどう
どうしてどう

（宮城千子）

蓮如さまが報恩講のお勧めのあと、帰命無

二月十七日 墓木 勢力逸様

五十九歳

九十三歳

（但東町教育委員会発行）

ことばより

涅槃会に

竜谷大学教授

寺川

幽苦方



二月十五日は「涅槃会」です。

この日、お釈迦さまが八十歳の生涯を完うされ、眞実の安らぎの世界に往生されたと伝えられていて、仏教徒は、この日を「涅槃会」と呼んでお釈迦さまの生涯を偲び、自分自身のいのちの行方に思いを馳せできたのです。

旅から旅を続けて、多くの人々に眞実の法を説かれたお釈迦さまが、最後の時を迎えたのは、クシナガラの郊外のサーラ樹の林にたどり着かれたときでした。ひときわ大きな枝葉を茂らせた二本のサーラ樹の下に、ずっと供をしてきたアーナンダに支えられ、頭を北に右脇を下に横になられたらお釈迦さまは、集まってきた人々に向かって最後まで法を説かれました。既に肉体の苦痛は鎮まり、眞実の法を説かれる仏陀の心は、限りない智慧と慈悲に満たされていました。

一人々よ。仏のこと、法のこと、サンガ(教団)のこと、あるいは道のこと、あるいは実践の方法について、疑問や惑いがあるなら今問うがよい。あとになつてあの時尋ねることができなかつたーと後悔するようなことがあつてはならない」と、お釈迦さまは実に三度も人々に語りかけられました。けれども、偉大な師との別れに臨んで、誰もことばができないと信じます」と答えました。お釈迦さ

「涅槃」とはニルバーナ。「煩惱を断じて完全な静寂に達した状態」を意味し、お釈迦さまの死の深い意味を語る言葉です。

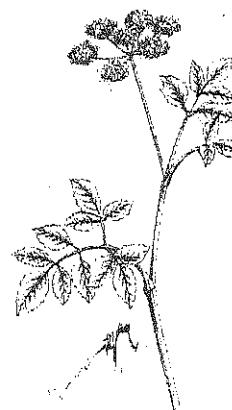
こちらは勝林寺テレホン法話です。
二月二十日発、今回は
相田みつをさんの詩、「のに」と
「トマトとメロン」の二編を紹介致します。
みなさんそれぞれの立場で味わつて見てください。

(の)に

あんなに世話を
してやつたのに
ろくなあいさつもないあんなに親切に
してあげたのに
あんなに一所懸命

のに：

トマトにねえ

いくら肥料をやつたってさ
メロンにはならないんだなあ

まは深くうなづかると、しばらくして「では、人々よ、わたしから言おう。すべてのものは移り変わつて行く。だから、怠らず精進するがよい」と語られ、静かに目を閉じられると、そのまま涅槃に入られました。

高齢化社会を迎えて、私たちは、自分の老いや死について漠然とした不安を感じています。世界一の長寿国に生きると言うことは、幸せなことには違ひありませんが、それは生き方や死の意味が深刻に問われる所以でもあります。

お釈迦さまの「老いてなお利他に生きる」最後の旅。そして「大いなる死」とよばれる涅槃の姿に、学ぶべきことの深さを、今年の涅槃会にあたつて改めて思うことあります。

「のに」がでたときはぐち
こっちに「のに」がつくと
むこには
「恩にさせやがつて…」
と思う

庭の水仙が咲き始めました
水仙は人に見せようと思つて
咲くわけじやないんだなあ
ただ咲くだけ
ただひたすら…

人が見ようが見まいが
そんなことおかまいなし
ただいのちいっぱいに
自分の花を咲かすだけ
自分の花を…
それで全部
花はただ咲くんです
それをとやかく言うのは人間
ただただただ…
それっきり

人間のようになんてぐちは
へのにになんてぐちは
ひとつもいわない
だから純粹で
美しいんです。

トマトより
メロンのほうが高級だ
なんておもつてているのは
人間だけだね
それもね

トマトより
メロンのほうが高級だ
なんておもつてているのは
人間だけだね
しかもねんだなあ

トマトより
メロンのほうが高級だ
なんておもつてているのは
人間だけだね
それもね

トマトもね
メロンもね
当事者同士は
比べも競争もしてねんだな
トマトはトマトのいのちを
精一杯生きているだけ
メロンはメロンのいのちを
いのちいっぱいに
生きているだけ

トマトもメロンも
それぞれに自分のいのちを
百点満点に生きているんだよ

トマトとメロンを
二つ並べて比べたり
競争させたりしているのは
そろばん片手の人間だけ
当事者にしてみれば
いいめいわくのこと

「メロンになれ!
カッコいいメロンになれ!
金のいっぱいでできるメロンになれ!」
と尻ひっさたかれて
ノイローゼになつたり
やけのやんばちで
暴れたりして いるトマトが
いっぱいいるんじゃないかなあ

次ぎの法話は三月一日にかわります
またどうぞお聞きください
こちらは勝林寺テレホン法話です。

